

北山三学区

北山杉 秋の台ツアー in 中川(10/7)



北山杉の里・中川。人の手で植林されたのは中川学区が始まりで、その歴史は600年と長く、世界の林業の中でも珍しい。近年、北山杉が醸し出す美しい景観に焦点を当てたガイドツアーを企画。今年度は「北山杉 秋の台ツアー」を開催し、多くの方が参加。北山杉の風景を前に、感嘆の声が聞こえることでした。

「様々な意見が出るが、前向きに考えていくことが大事。まずはやってみよう」という気持ちで取り組んでいる。自治振興協議会の石岡会長のその言葉に、地域をしっかりと守り、後世に伝えたいという強い想いを感じました。

雲ヶ畑サロ「さじきの里」(12/13)



雲ヶ畑学区では昨年4月、お年寄りをはじめみんなの居場所として「さじきの里」がスタート。毎月13日には様々なイベントが催され、とりわけ12月の「クリスマス会」では、お食事のほか、カラオケやサンタクロースからのプレゼント企画も。賑やかな時間が流れました。

また、毎月の「すこやかサークル」では、簡単な体操もお楽しみいただけます。主催者の方々は、助け合って暮らせる近所同士のつながりを大切にされています。いつでも誰でも参加可能。若い方のご参加も大歓迎です。

岩戸落葉神社ライトアップ in 小野郷(11/18)



地域の方々はもちろん、地域を離れた方々も一堂に集う大切なイベント。何よりも美しいのは、樹齢数百年とも言われている堂々としたイチョウです。今年は台風の影響で、葉が半分ほど落ちてしまいましたが、ライトアップされた風景は圧巻でした。「最近神社の知名度も上がって、本当に嬉しい」と、イベント発起人で15年前から携わっている高橋実行委員長。笑顔が絶えないこの場所、美しい風景がこれからはたくさんの人々を楽しませることを願っています。



今年で17回目を迎えるこのイベント。健康体操や大学生らによるよここの発表など、様々なプログラムで会場は大いに盛り上がりました。また、かき氷や唐揚げなどの模擬店、三消防車に乗れる体験コーナーもあり、子どもたちに大人気！

来場者に同様に、「すこやかサークル」を通じて住民が交流し、子どもたちが地域で暮らしやすく思っていると思うので、「ありがたい」と話されています。地域の皆さんが交流できる大切な場として、いつまでも開催されることを願っています。

紫明夏まつり(7/23)



毎月第三土曜日、元町会館で開催される本サロン。取材当日は、杉乃家孝孝さんによる落語「ちはやぶる」の公演。巧みな話術とトッチの効いた話で笑いの渦へ。その後、健康体操が行われました。「すこやかサロンの一番の目的は、参加される方に笑顔で健康的な生活を送ってもらうこと。家に閉じこもりがちの方にも興味を持ってもらいたいので、内容を工夫しています」と担当の小野さん。お年寄りの心に優しく寄り添う「元町すこやかサロン」には、笑顔があふれていました。

長寿の秘訣は笑顔から〜元町すこやかサロン〜(11/18)



「学生さんは卒業後に離れてしまうのが残念。社会福祉協議会の黒田会長が、そう語っておられました。」

一方、まつりでは大谷・立命館・京都産業大学の学生グループで、新大宮商店街を舞台にボランティア活動などに取り組む「そらたねプロジェクト」が大活躍。あるメンバーは「準備は大変だけど、喜んでいただけるとすごく充実感がある」と。「学生のお陰で、このまつりが続けられるという地域のお声も伺っています。地域のために、学生の立場でもできることがある。そう実感すると同時に、このまつりがずっと続いていけばと感じました。」

新大宮夏まつり in 鳳徳(7/29)



「紫竹チャレンジ」とは①墨と筆を使う「墨のアート」、②ハンターから逃げる「逃走中」、③船岡山に登る「船岡山」の3コースに、地域の子もたちが全力でチャレンジするイベント。子どもたちは、地域の皆さんや保護者、先生らが手作りで用意したコーンを楽しんだ後、焼き芋を美味しく堪能。地域との関わりが薄れている昨今、こういったイベントは互いに知り合える大切な機会になっていると感じました。子どもたちの笑顔があふれる地域づくりが大切だと実感しました。

紫竹チャレンジ(11/5)

大谷大学



取材担当は左から
川口 元春(ゆきむち もとはる)さん
岡崎 藍(あいかぜ あい)さん
湊 千広(みなと ちひろ)さん
山崎 星奈(ほしなせき)さん



北区18学区×区内4大学

北区の18学区の自治会・町内会のご活動と区内の4大学(大谷大学・京都産業大学・佛教大学・立命館大学)の学生さんが独自に取材!

明神川行燈フェア in 上賀茂(8/9-13)



地域の夏の風物詩「明神川行燈フェア」に伺いました。およそ100基の行燈は、その一つ一つが上賀茂小学校や児童館の子どもの手作りの。絵具やクレヨン、切り絵でデザインされた心のこもった数々の作品が、夜の明神川を彩ります。伝統的な街並みとあじまったその風景は幻想的で私たちも見とれてしまいました。

また、地域住民のボランティアで完成された「上賀茂音楽箱」によるクラシックやフォークソングなどの素敵な演奏もあり五感で楽しめる感動しました。

大宮学区「ふれあい夏まつり」(8/5)



今年で33回目を迎え、毎年約3,500人もの方が参加される大宮学区「ふれあい夏まつり」。小学生のファンファーレやよさこい、和太鼓、さらには消防署・消防団主催によるゲーム大会など、様々な団体の皆さんが熱気あるパフォーマンスをお祭りを盛り上げました。

また、屋台で販売されるものは、全て当日朝からの手作り。子どもたちが気軽に楽しめる価格設定も魅力。まつりの随所に、地域の皆さんの温かさを感じました。

クリーンキャンペーン in 柎野(12/3)



活動がスタートした約10年前、当時は自動車・自転車・バイク等の不法投棄が大きな社会問題に。そこで地域が立ち上がり、毎年12月に清掃活動を実施！地道な活動が実を結び、美しい環境が戻りました。

現在では、地元中学生、京都産業大学の学生も含め総勢500名が参加。作業は午前中のみで、掃除用具もあらかじめ用意されていて、気軽に参加できます。多くの人々の良い交流の場にも。

活動当日は例年、京都学生駅伝の開催日でもあり、ランナーの頑張る姿を応援しながらの清掃で、毎年盛り上げられます。

鷹峯ふれあいまつり(8/5)



地域のたくさんの方々が交流できる「ふれあいまつり」。小学校のグラウンドには、屋台、ゲームコーナー等が並び、色鮮やかな浴衣、そよ風のTシャツの子どもの元気な姿が会場を沸かせていました。

今年は新たに「鷹峯サンソン」が登場。まつりの最後にみんなで輪を作り、歌いながら踊るといふものです。自治連合会の森田副会長は、「これを毎年続けて参加者を増やし、もっと大きな輪にしていきたい」と、たくさんの方に楽しんでいただきたいと、工夫を重ねられているふれあいまつり。鷹峯の皆さんの絆が伝わってきました。

待鳥子ども防災EXPO(11/5)



防災訓練と同時に開催され、子どもたちに災害対応の大切さを伝えるこのイベント。自主防災会をはじめ、約200人が参加！

簡易担架の作り方や油圧ジャッキの使い方の講習や児童向けに災害時の対応クイズのほか、食器やスリッパを新聞紙で作る講習も。非常食や段ボール製の避難スペースといった最新の防災グッズの展示もありました。

万が一への備えを、地域の皆さんが真剣に考えておられることが伝わってきました。

大根吹き in 樂只(12/25)



消防分団特製の「大根吹きとカレー」をいただきながら、防火・防犯を楽しく学べるこの取組。一人用で作ることが少ないカレーは、一人暮らしの方にも好評！もちろん子どもたちも大喜びです。

高齢化が進み、地域福祉の一環として民生児童委員の方や大学生が消防分団に。お年寄りの独居に心を配り、「まずはコミュニケーションが大事。お昼の見回り活動に取り組みたい」と。

大根吹きは、無病息災を願う京都の風物詩。消防分団の皆様の思いがよくしみた大根で、みんなが一年元気に過ごせると思います。

ハロウィンフェスティバル in 紫野(10/28)



今年初開催の「ハロウィン&仮装パレード」。学区内の各ポイントに、仮装した子どもたちがお菓子をもらいながら巡りました。その後は小学校体育館を会場に仮装コンテストも。ランウェイを歩いてポーズを決め、カッコ良さ、カワイイさを競うのです。

子どもたちの笑顔を前に社会福祉協議会の石岡会長は、「多くの方々の参加があり大成功だった。来年度以降も開催し、学区の新たなイベントにしたい」と。

学区の皆さんが、子どもたちを中心に住みやすい学区づくりを考えておられる。そのことがよく伝わってきました。